

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方々と交流、お互い助け合い、いつも笑いがたえないような施設を目指します。」また「常に利用者の立場に立ち、利用者が安心、納得出来るサービスを提供する」の2項目を理念として、全員で取り組んでいる。	○	全職員で協議し、理念の作成を行った。重要事項説明書、運営規定にも記載し家族に説明を行っている。一人一人が主人公になれるような、サービスの提供を心掛けている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の介護の中で問題点が発生した場合、理念にもとづき、家族の方や、利用者にとって、最も良い方法を皆で話し合い支援している。	○	
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの見学者、面会時、家族の方々に理念を説明し利用者の方が生き生きと生活して頂くために家族の方々の協力、理解が不可欠であることを伝えている。	○	
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの方が苑内草刈などみえた時、利用者の方と一緒に気軽にお茶を飲んで頂く場を提供している。	○	
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の文化祭には作品を出品したり、地域婦人会のホーム見学を実施し事業所を知って頂ける様、地域との交流に努めている。	○	地区の消防団の方々と馴染みの関係を構築し、災害、火事、事故時支援しやすい関係作りを準備中である。(ホーム見学など)
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム見学者に対して認知症の方のケア内容、心理等を説明し、家族以外の方にも認知症の理解が広まるよう取り組んでいる。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員会議・申し送り等を利用し職員全員で確認し、改善点を話し合った。サービスの質の確保向上を日々の介護の中で意識している。	○	会議に出席出来なかった職員にたいしては、伝達研修を利用している。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の新しい“理念”を運営推進会議で報告し介護の方向性を伝えている。又火災時地区の分団(消防団)との方々の力が必要ではないかとの貴重な意見を頂いた。	○	現在地区分団の協力を準備中である。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも入所者のケースワーカーと共に問題解決にむけ協働作業を行っている。	○	
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム内で勉強会などは行っているが、実際に活用は出来ていない。必要な人には活用出来る様支援を行っていききたい。	○	成年後見人制度を利用し利用者の安心を支援していききたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を組織し定期的な話し合いをする様にしている。	○	言葉の暴力による精神的な虐待は、言った本人は気が付かない時もある為、職員同士お互い注意しあうようにしている。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホーム内でのケア内容、現在の介護度に対する利用料等具体的な内容にそって説明し理解されたか確認している。	○	どんなことでもいいので、不明な点はいつでもお電話くださいと伝えている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口をホーム内及び、重要事項説明 書に外部機関も含め記載し利用者、家族に説 明している。	○	各居室の担当職員を決め利用者が、不満や苦 情が表出しやすい環境を提供している。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族面会時には暮らしぶり、出来事など報告 している(写真等も活用している)健康状態 に変化がある場合は、家族の方に、電話等で 早めに、連絡する様にしている。	○	急な用件でなければ、家族宛に利用者の様子 を手紙で報告している。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満等を聞いた時はその問題解 決出来る様職員で話し合い前向きに取り組ん でいる。	○	
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	職員の意見、提案はその都度十分に聞き質の 向上につなげる様に努力している。	○	管理者も朝の申し送り等に参加し、意見提案 等聞く機会を設けている。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入所者に迷惑がかからない様、柔軟に職員の 勤務の調整を行い対応している。	○	
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時は、引き継ぎ期間を十分にと り、利用者が不安にならない様に配慮して いる。	○	グループホームへ異動が決まった職員は、時 間を作り、グループホームを訪問し利用者 に、顔を覚えてもらうようにしている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては本人の適性、やる気、将来性を重視しその能力が十分発揮出来るよう、職員の配置異動などに配慮している。	○	
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権が尊重される様地域福祉権利擁護等のホーム内の学習会を開いている。	○	
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上を行ううえで、職員の研修は必要である為、年数に応じ研修をうけてもらっている。	○	
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で知り合った同業者と情報交換を行い、ネットワークづくりを広げ、サービスの質の向上につなげている。	○	
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスが軽減するよう訴えに対しては傾聴し、その背景にあるものを理解するように考慮している。	○	
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が心身ともに健康で働き続けるために1年に1～2回の定期健診、努力や成果についてはおおいに誉め、やる気がなくなるような様心掛けている。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の方の心理や思いを把握するために、訴えを傾聴したり、時間をかけて待つことを行ったり、行動を見守ったりしながらありのままを受け止めるようにしている。	○	利用者自身がケア内容に納得出来るよう支援している。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と家族の思いにズレがある場合、今おかれている、それぞれの状況を把握しアセスメントする様にしている。	○	
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人が一番に求めている支援が事業所では出来ないと思った時は他の事業所を紹介し対応している。	○	まず傾聴し家族の言いたいことを把握することからはじめている。
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気を感じてもらうため、家族、本人にゆっくりと見学をすすめている。利用者とのお茶のみ等参加してもらい、少しでもホームに馴染める様支援している。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方の今まで生きてこられた歴史を受け止め、その方のこだわりが、支援出来る様心掛けている。又戦争の話しや子供時代の話しなど現代とは違うため学ぶことも多い。	○	
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者が自分らしく生活するためには、家族の方々の協力が必要であることを面会時等話し合っている。	○	家族の面会時本人の変化を（普段よりも笑顔が多い、表情が明るい等）伝え家族が本人に与える影響について知らせている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が面会を楽しみに待っている事や、面会中は、表情も落ち着いている事を伝え、利用者と家族の、良い関係が続く様対応している。	○	
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がよく口にする知人の名前や親しい関係の人がいる場合、家族の方に面会を進めたり写真を見せて頂いたりしている。	○	
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	食事時隣の席の利用者が食堂に見えていないと居室に声掛けにいかれたり、洗濯物を職員と一緒に居室に届けたり、利用者がお互いに孤立しないように支援している。	○	利用者間でよくトラブルとなる人間関係の時は、早めに職員が二人の仲に入りトラブルの解消を行っている。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去され、他の施設、病院に移られた方も面会に行く事がある。	○	

【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】

1. 一人ひとりの把握

35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症がすすみ、コミュニケーションがとりづらく、本人の思いや意向が、表出できない場合、わきたの里の理念にのっとり利用者が、安心納得出来るサービスを提供するようにしている。結果はその方の表情や、家族からの意見希望などを参考にしている。	○	利用者一人一人が主人公になれるよう配慮していきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞き出す事が不可能な場合も多いが、そのような時は家族や子供さんがみえた時十分うかがう様にしている。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心理状態、周りの環境、関わり方により利用者の反応が違うため時間帯や1日の流れ、その方に合った対応の仕方等、総合的に把握する事が出来る様努力している。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時、利用者の生育歴などを、家族の方から教えていただき、その方にあった、介護のヒントを頂いている。又自分の意思を伝える事ができる利用者の場合は、居室担当者や介護支援専門員と、十分話し合い介護計画の作成を行い、支援している。	○	
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が現状に即していない場合、家族本人や職員等で話し合い介護計画の見直しを行っている。	○	
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	伝達ノート、業務日誌等利用し情報を共有している。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者にとって精神的負担となる恐れのある、長期入院を回避し、慣れた環境を提供するために、早期退院の支援している。	○	苑内で出来るリハビリ等になった時点で早めの退院を心掛けている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の必要性に応じ、民生委員、ケースワーカー等と協力しながら、利用者の方が生き生きと暮らせるように取り組んでいる。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の選択肢を増やし希望をかなえるため介護保険以外のサービスも利用したい。	○	本人の希望にあわせ理容や訪問歯科受診を行っている。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業者のみでは解決できない困難な状況に応じて地域包括支援センターと連帯を図りながら個別支援をおこなって行きたい。	○	
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医の希望を聞き、その病院が遠方の場合、受診の介助等を話し合いでお願いすることもある。	○	協力医がいることで、利用者一人一人の健康状態の把握ができるため、家族に安心を提供している。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	わきたの里の協力医が入所前より、かかりつけ医となっている利用者も多く医師と慣れ親しんだ関係が職員、利用者共に築かれている。	○	
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護師を配置している。夜間での急変、事故等連絡し受診、処置等協働で行っている。	○	利用者の健康が維持出来る様、看護師、協力医との連携をとり早期発見に努めている。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関、本人、家族と話し合い、グループホームで出来るリハビリ等になった時点で、本人の精神的負担を軽減する為に、早めの退院を支援している。	○	退院後リハビリ方法など不明な点は病院に確認し情報収集を行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、見取り介護のマニュアルがあり、利用者の状態の変化により、家族、協力医、職員と話し合いを行い、方針の共有を行う。	○	
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合事業所の対応できる範囲を示し医療関係者、家族との連帯を図り支援を行っていききたい。	○	
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対し利用者の性格、健康状態ケアの工夫等を詳しく伝え急激な環境の変化が起きないように配慮したい。	○	プライバシーの保護に配慮しながら住み替えの精神的ダメージの軽減に配慮していききたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で利用者、他の家族がいる前で他の利用者の情報を漏らさない。噂話をしない。	○	職員の声掛け等で利用者のプライドを、傷つけることなどが無いよう、職員間でお互い注意しあっている。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活のなかで、利用者が自己決定出来る様、わかりやすい言葉、答えやすい内容等に配慮し、表情や全身の反応に注意深く観察を行っている。	○	わきたの里の理念の一つである、利用者が納得出来るサービスの提供を目指している。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のリハビリ体操(レク)等は全員に声掛けをするが、本人のペースに合わせ参加頂いている。本人の健康状態もよく天気の良いときには散歩や隣の特養に仏様参り、ドライブ等を支援している。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	翌日に着る服などは本人の意見を聞きながら職員と共に準備している。馴染みの床屋があれば家族に支援していただくようにしている。	○	
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味見を毎回利用者をお願いしている。箸を並べたり、食器を台所まで運んでもらったり、利用者の能力にあわせ、参加して頂き、食事を楽しんでもらえる様努めている。	○	利用者の誕生日には、苑長や、職員と一緒に外食を楽しんで頂いている。利用者の嗜好調査を行い好きなものを、提供出来る様にしている。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物等は利用者の嗜好に配慮し、意見を聞きながら準備するようにしている。体調を崩された時には、食べ易いものを本人の好みに合わせ、好きなものに換え提供している。	○	
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、利用者の行動、表情より出来るだけ失禁が少なくなるよう、支援している。	○	
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調に合わせて、入浴順番などをその日に聞き、決めている。	○	入浴拒否がある時は、無理強いせず暫らくして再度、声掛けを行っている。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はその方のペースにあわせ、1～2時間の昼寝をとられ、体調のコントロールをして頂いている。夜間時寒がりの方には家族より毛布、等準備して頂いている。	○	中々入眠出来ない時は職員と一緒にテレビ鑑賞をしたり、話しをして気分転換をして頂いている

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花が好きな利用者には、玄関のプランターに、水やりを職員と共に行ったり、日めくりカレンダーの係を決め、それぞれが役割を持ち、一人一人が生き生きと生活出来る様配慮している。	○	一人一人の生活歴を生かした支援をしたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のそれぞれの能力にあわせ外出時、スーパーに立ち寄り、本人が自分でお財布より、買い物をするを、大切にしている。	○	
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の健康状態もよく天気の良いときには散歩や隣の特養に仏様参り、知人の顔を観に行ったりされる。	○	近所の公園等で季節の花が咲いている時はドライブを行い気分転換を行っている。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が普段いけない所に家族と共に行く機会を話し合い支援している。	○	
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の能力にあわせ自ら電話を掛けたり、手紙を書いたり、出来ないところのみ、職員に頼まれ、家族や大切な人と連絡が取れるよう支援している。	○	個人のプライバシーが保たれるよう配慮している。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	利用者の馴染みの人の訪問がある時はコーヒー等を一緒に飲んで頂きゆっくり気軽に話せる環境を提供している。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守る事がケアの基本であることを意識しながら、職員全員で身体拘束をしないケアを実践中である。	○	
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	隣の特養職員や事務所の見守り等協力の上、日中リビングや玄関に鍵を掛けずケア実践中である。	○	常に利用者の見守りを行い、精神状態（帰宅願望、興奮状態）の観察を行うようにしている。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が居室に入る場合ノックし声掛けを行っている。夜間徘徊や頻回なトイレ行きのある利用者は見守りを十分行っている。	○	
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	石鹸を異食行為される利用者があるが、グループホームは生活の場であることからすべての石鹸を排除せずその利用者がよく行かれる洗面台の石鹸を排除している。	○	家庭に近い環境を提供出来る様取り組んでいる。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時関わった職員が記録し状況を他の職員に伝え事故の再発防止に努めている	○	事故報告書に記録し、職員全体で情報の共有化を行い、事故防止に努めている。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変事故発生時の対応マニュアル、緊急連絡網がありもしものときに備えている。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者を含めた非難訓練を一年に一回消防署の指導のもと行っている。地区消防団員の協力が得られるよう調整中である。	○	地域消防団との避難訓練の調整中である。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族面会時健康面については看護師より報告し緊急の場合は早期に電話連絡をおこなっている。状況の変化に応じ対応を心掛けている。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕のミーティング申し送り時、特に体調不良の利用者に対し看護師と情報を共有し、異常の早期発見に努めている。又協力医等と密に連絡を取り合い利用者にあった対応を支援している。	○	検査の結果など面会時に伝えている。急ぐ場合は電話で報告を行い、家族と連携を保っている。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が内服薬の目的を知り最低3回の確認を施行し誤薬投与のない様に心掛けている。投薬拒否のある利用者に対しては薬の必要性を説明し確実に内服を確認する。臨時薬に対しては症状の観察を行うよう情報の伝達を行っている。	○	
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝のリハビリ体操時、腹部マッサージをとり入れている。便秘予防のためには、体操や水分を十分取る必要があることを、職員も一緒に体操しながら伝えている。	○	便秘症の方には特に小まめな水分補給を促している。野菜ジュース等 準備することもある。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人能力に合わせ、自分で出来るところは、利用者にお願ひし、最後は職員で仕上げを行っている。口腔ケアを拒否される利用者に対しては、暫らくしてもう一度声掛けを行う。	○	うがいの出来ない利用者はガーゼを使用し口腔ケアを行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎回記録し各々の健康状態の把握に努めている。カロリー栄養の偏りが無い様栄養士が算出している。	○	食思低下が続く時は本人が好きなのものを、提供したり、協力医と連絡し健康状態の把握に努めている。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり季節により発生しやすい感染症にたいしては事前に勉強会を実施している。	○	食事前、トイレ後の手洗い等職員も含め徹底し実施している。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の定期的な掃除、除菌、調理前の十分な手洗い、食材の配送があった場合鮮度を確認しながら早めの食材管理を行っている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花やプランターを配置し、清潔感や安らぎが感じられるよう工夫している。	○	
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飲み物等は利用者の嗜好に配慮し意見を聞きながら準備するようにしている。体調を崩された時には食べ易いものを本人の好みに合わせ好きなものに換え提供している。	○	洗面台に飾る花を、苑庭に職員と共に散歩しながら、取りに行き季節感を感じて頂くようにしている。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは共用であるが、一人一人の座る場所が定着しており和気藹々とした雰囲気でも過ごされている。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時あるいは家族面会時相談しながら出来るだけ今まで使っていた洋服、日用品など持参されることを薦めている。出窓には家族等の写真や花などで飾っている。	○	日ごろ使用されていたお茶碗等があれば、持ってきて頂くようお願いしている。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	排泄物の臭いが居室に残らないよう頻回に換気を行っている。温度調節は温度計のみに頼らず利用者の行動表情にも注意し観察している。	○	外気温との温度差や個人差を考えながら換気空調の調整を行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存機能を利用し、出来るだけ自立した生活が送れるよう、建物内部はバリアフリーを使用している。ドアは車椅子の利用者も使いやすいよう、引き戸を使用している。	○	
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見当識のある利用者が居室を間違われた場合慌てて混乱される事がある。その利用者に対し、見守りを多くし居室入り口には名前を少し大きく書き出し、不安をなくし自立を促している。	○	その方にあつたケア内容を職員家族と話し合い、ひとつでも多く自立されるよう支援している。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日はベランダにおいて食事会やりハビリ体操、家族との面会時お茶を一緒にのんびりしたり、職員と一緒にくつろいだりされている。	○	自然が多く周りの環境がよいのでベランダの利用を続けたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「地域の方々と交流し、お互い助け合い、いつも笑いがたえないような施設を目指します。」毎年参加させて頂いている地域福祉祭りや、ボランティアの方々の訪問等、地域の方々と交流するなかで、人生の先輩として利用者の方が地域の方に昔のことを教えてくださったり、利用者が地域の方から元気を頂いたり、お互い助け合い、共に生きる関係を築く事を支援します。

「利用者の立場に立ち、利用者が安心、納得出来るサービスを提供します。」うまく自分の気持ちを表出できない利用者さんの思いを、日常のケアの中で察知し、職員全体で話し合っていき、グループホームわきたの里では、利用者一人一人が主人公であることを感じ取っていただけるような、サービスの提供を目指します。